

□議員名：中村 博行

1 厚陽地区の将来展望について

論点	厚陽中学校は生徒数の減少でクラブ活動もままならないところまで来ている。存続について今後の方向性、計画はどうなっているか。
回答	平成29年度から施設一体型小中一貫校として9年間の教育目標を設定し、学年を超えた交流、乗り入れ授業など小中一貫による教育効果が期待できることから現在、統廃合の協議対象にはなっていない。教員会としても、引き続き学校の取組の支援に努めていく。

論点	厚陽小学校は現在、3・4年生が複式学級になっている。来年度も複式学級の可能性があるかと聞く。複式学級の要件はどんなものか。
回答	学級編成については山口県教育委員会の定める学級編成基準による。これは公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律に基づき作成される。この基準によると小学校では児童数が小学1年を含まない2学年の場合には16人以下で複式になる。

論点	厚陽中学校が統合となれば「山陽小野田市立適正規模・適正配置基本方針」から小学校も必然的に廃校の可能性があるのではないか。
回答	仮に中学校が統合し、小学校5学級以下が5年継続した場合は適正配置の協議対象となる。しかし、学校は各地域のコミュニティーの核として地域で果たしてきた役割や地域事情にも配慮すべきであり、保護者や地域の皆様と十分協議し、方針を決める必要がある。

論点	厚陽保育園は定員60名に対し現在47名である。新設予定の「日の出保育園」の定数次第では大幅な定員減となる。考えはどうか。
回答	「山陽小野田市公立保育所再編基本計画」は市全域を1区域としつつ4地区に分け、私立保育所も考慮して、「日の出保育園」の定員を170人としていた。しかし、近年の出生数や保育需要の動向を鑑み、新設後の定数については現行と同じ120人に変更することとした。

論点	厚陽保育園は昭和47年建築である。老朽化が顕著であり、蛍光灯のLED化、トイレの洋式化など施設改善をどう考えているか。
回答	「山陽小野田市公立保育所再編基本計画」において老朽化対策等の必要な整備を行いながら当面継続して運営していくこととしている。今年度も事務室のエアコン設置など、できるところから修繕や整備を行っている。今後も適正な管理に努めていく。

論点	都市計画マスタープランでは厚陽地区は厚狭地域の大きな括りの中にあるだけである。中学校区ごとの計画策定の考えはあるか。
回答	厚陽地区は厚狭地域に含まれ、地域別構想の現況整理では眺望が良いところ。まちづくり方針では、干拓地は優良な大規模農地の保全を図る、住宅地では居住環境の整備に努めることとしている。次回改定の際には、地域別構想区分の考え方についても検討していく。

論点	厚陽中学校の跡地利用について地域の声として住宅の要望が多いが、市はどのように考えているか。
回答	公立施設跡地活用指針において、市有地について庁内委員で構成する市有財産活用検討委員会にて利活用の検討を行うようにしている。旧厚陽中跡地については、体育館が避難所となっているため、交流センターの整備も含め、現時点では活用方針は決まっていない。

論点	一昨年9月議会の一般質問で提案した学校北部の農地に保育園、地域交流センターなどを含めた複合施設の建設は検討されたか。
回答	地域交流センターの建替え、保育所の整備など既存の施設を生かすことになれば厚陽小中学校との複合化も考えられる。複合施設を整備することについては、困難と考えているが、地域の声を聞く中で厚陽地区全体の公共施設の在り方を含めた検討を進めていく。

## 2 新たな企業団地の設置について

論点	企業誘致については地域振興策としての役割を終えたとの意見も
----	-------------------------------

	あるが、今後も積極的に推進していくのか考えを問う。
回答	市内での新たな雇用創出や地元の経済波及効果などが期待される重要な政策であり、今後も企業誘致を引き続き積極的に推進していく。新たな企業団地の設置、未利用地の発掘、サテライトオフィスの誘致など比較検討を行い、一番効果的な方向性を定めていきたい。

論点	「小野田・楠企業団地」の現状から新たな企業団地の設置は急務と思う。県との連携を含めどのように進めるのか考えを問う。
回答	企業誘致の一つの選択肢ではあるが、最適な場所の検討、多額の造成費用やその後発生する団地の維持管理費も含めて考えていく必要がある。毎年、山口県企業立地推進課に本市職員を派遣しており、更なる県との連携強化や情報収集を行い、企業誘致を進めていく。